

CEO スモールミーティング 質疑応答（要旨）

Q1) 今回の機材発注の背景と投資額の詳細について教えてください。

- A1) ・ コロナ禍では機材の更新および追加発注を抑制してきましたが、中長期の更なる成長に向けては機材の調達が必要です。足元では、航空業界全体で機材需要が増加しており、地政学の影響等で機材の受領時期が後ろ倒しになる可能性も考慮し、適切な時期での調達を実現するため今回の発注を決定しました。
- ・ 機材価格は、メーカーとの交渉により割引が適用されるため、実際の購入価格はカタログ価格と比べて少なくなる見込みです。

Q2) 国内線の収益性改善に向けた今後の対応策について教えてください。

- A2) ・ 国内線は、高単価旅客の減少とコスト増加により、コロナ禍以前と比較して収益性が低下しています。中長期的にも、国内人口の減少等に伴い需要が減少する可能性があります。
- ・ 対応策として、今回発注したエンブラエル E190-E2 型機を活用した機材の小型化による需給適合や運賃改定等によって、ユニットレバニユーを向上させ、地方路線を含む国内線全体の収益性を高めていきます。
 - ・ エンブラエル機を受領は 2028 年度以降となるため、短期的には、単価向上やコスト適正化などの自助努力を進めていきます。その他、他社との一部業務や訓練などにおける協業・協調も進める必要があると考えています。

Q3) 国際線の事業拡大が進む中で、今後のイールドの方向性をどう見通していますか。

- A3) ・ 国際線需要は旺盛ですが、サプライチェーンの混乱による機材受領の遅延から、市場全体の供給量が中期的に大幅に増加する可能性は低いと見通しています。そのため、イールド水準は中期的にも小幅な低下にとどまると想定しています。
- ・ 今後の国際線事業は、成田空港からの増便を中心に、羽田空港との役割分担を考慮しながら、固定費の増加を抑制しつつ拡大します。国際線事業は、今後も高い収益性を維持しながら事業規模の拡大が可能と見通しています。

Q4) 今回の機材発注を踏まえ、株主還元と設備投資のバランスに関する考え方を教えてください。

- A4) ・ これまでお示してきた通り、株主還元については、利益見通しや成長投資とのバランスも踏まえながら、段階的に強化する方針です。具体的な還元策は、安定的かつ継続的な配当や、財務の健全性維持を前提とした自社株買いなど様々な選択肢を含めて検討していきます。
- ・ 今回の機材発注によってキャッシュアウトが発生しますが、足元の潤沢な手元流動性と今後の営業キャッシュフローで対応しつつ、必要に応じて負債による資金調達を検討します。

Q5) 今後のバランスシートマネジメント、資本収益性、資本コストに関する戦略の方向性を教えてください。

- A5) ・ バランスシートマネジメントについては、利益の蓄積による自己資本の積み上げと手元流動性の適正化により、強固な財務基盤を構築する方針です。
- ・ 株主資本コストは、コロナ前と比較して上昇傾向にあり、直近の資本市場の動向を踏まえると、8%程度と認識する必要があると考えています。今後も株主資本コストの把握と低減に向けて、ボラティリティの抑制やESGに関する情報開示の充実など、資本市場からの信頼を高める取り組みを推進します。
 - ・ エクイティ・スプレッド4%以上の安定的な確保のため、ROEについては12%以上の水準を目指します。収益性と効率性の向上のため、事業ポートフォリオに関する議論を加速するなど、グループ全体の経営資源配分を最適化していきます。

以上